

# 目指すのは多世代が共に生きる地域社会 株式会社 カラーズ

●リポーター 榎桂川精螺製作所 大鷲 憲太郎

突然ですが2025年問題ってご存じですか？筆者は知らなくて恥をかいた。団塊の世代が75歳を迎えるのが2025年なのだそう。統計では75歳を超えると介護が必要な割合がグーンと増えるらしい。筆者の両親も団塊の世代だが、幸いなことに健在で介護が必要なくも生活している。しかしながらいよいよ介護が必要になったときに、誰に最初に相談すればよいのだろうか？皆さんは知っていますか？クイズです。

- ① 保健師
- ② 介護福祉士
- ③ ケアマネージャー
- ④ 理学療法士

(答えは最後に)

今回訪問させていただいたのは、2011年設立の介護、障がいサービスや、子育て支援を手掛ける株式会社カラーズ。社長の田尻さんは、創業社長で3人のお子さんを育てながら、精力的に社長業もこなす才能あふれるキラキラな女性だ。企業理念もフレッシュでみずみずしく、「顧客ニーズ」と「働く人の成長」の両方を大切にしつつ「地域の暮らし」を支えるというもので社長が自ら企業理念を実践すべく会社を牽引している。自らの母に納得のいく介護ができなかった経験から訪問介護の会社を立ち上げたが、その他にも利用者のニーズから生まれた様々な事業を展開している。子育て支援事業は、まさに利用者の細かいニーズから生まれたサービスであり、きめが細かい。「産前産後の家事サービス」などは実際にどのような困りごとがあるのか現場の声を聞き取らないと事業化できないであろうし、「放課後等デイサービス」や「ひとり親支援事業」なども働く女性がどのようなサービスを求めているか利用者の求める声を吸い上げていった結果であろう。特筆すべきなのは車いすの

自社開発事業である。大森（あるいは「大田区内」）の町工場とタッグをくみ傾斜や段差のある道も楽に進める「直進軽快車いすCOLORS」は特許も取得した。

さてカラーズの福利厚生だが、お母さんのようにきめ細やかで温かい。仕事から、お客様にも従業員にもコロナ感染者を出さないため、毎週抗原検査を実施してみんなの健康を守っている。コロナでなかなか食事会や飲み会を催せないため、社長自らが選んだお弁当を頑張っている社員に差し入れる。ただ労うばかりでなく、社員の資格取得などの努力に報奨金を出す。年に一度社員が各々どのようなことを努力して成果をあげたか紹介した冊子を作り（ちゃんと製本してある！）みんなで、各々の努力と成果を共有し称えあう。女性社長ならではの、社員のことを真剣に考えた福利厚生であると感じた。

最後になりましたが、多方面で大変お忙しい中快く取材を引き受けていただいた田尻社長に感謝の意を表するとともにカラーズの益々のご発展をお祈り致します。

(クイズの正解は③ 皆さんはわかりました？クイズに正解できなかった方はぜひ「仕事と介護の両立支援セミナー」をカラーズに依頼しましょう。区の補助で大田区企業のみ無料で訪問セミナーを開いてくれます！)



介護福祉士合格者



お弁当配付



直進軽快車いす

